

中小企業地域資源
活用促進法に基づく



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

わが市町村の
ふるさと名物は
これ!

富山県高岡市
が応援するふるさと名物

**「高岡銅器」
による商品群**





ふるさと名物
Furusato Meibutsu

応援宣言

富山県高岡市

地域の プロフィール



利長くん

高岡市は、本州のほぼ中央で日本海に面する富山県の北西部に位置しています。市内の西側は山間地域で西山丘陵や二上山が連なり、北東側は富山湾、東側は庄川・小矢部川によって形成された良質な地下水を有する扇状地が広がるなど、深緑と清らかな水に包まれたとても自然豊かな地域です。日本の渚百選に選ばれた雨晴海岸からは、海越しに3000メートル級の立山連峰の大パノラマを見ることができます。

高岡は、慶長14年（1609）、加賀藩二代藩主・前田利長によって高岡城の城下町として開かれました。「高岡」の地名は、利長が「詩経」の一節「鳳凰鳴けり彼の高き岡に」から引用し、この地の繁栄を願って名付けたと伝えられています。

高岡は商工業で発展し、町民によって文化が興り受け継がれてきた都市です。高岡城が廃城となり、繁栄が危ぶまれたところで加賀藩は商工本位の町への転換政策を実施し、浮足立つ町民に活を入れました。鋳物や漆工などの独自生産力を高める一方、穀倉地帯を控え、米などの物資を運ぶ良港を持ち、米や綿、肥料などの取引拠点として高岡は「加賀藩の台所」と呼ばれる程の隆盛を極めました。

現在、高岡銅器と高岡漆器は、高岡を代表する伝統産業であり、藩政期以来の長い歴史の中で受け継がれてきた「ものづくりのわざと心」が今もなお脈々と息づいています。また、先人がつくりあげ洗練させてきた「ものづくりの技」を継承しつつ、アルミ、化学・薬品、紙・パルプなどの近代工業がこの地に根付いています。また、デザイン性の高い新しいクラフト商品が次々と発表され、注目を集めています。

1

主な地域資源

◆開町以来受け継がれてきた高岡銅器の鋳物技術

高岡銅器は、慶長14年(1609年)加賀藩主前田利長公が高岡開城後に招いた7人の鋳物師達（河内国丹南郡の技術を受け継ぐ）の手によって始まります。当初は、鉄鋳物が中心でしたが、江戸時代中頃から銅鋳物も盛んになり、明治期になると技術力は更に向上し、万国博覧会を通して世界にも紹介され、輸出品としても美術銅器は確固たる地位を築きました。昭和50年には国の伝統的工芸品の産地指定を受けています。

2

ふるさと名物

◆高岡銅器による商品群

発祥以来400年たった現在も日本の銅鋳物の産地としてインテリア小物から屋外のブロンズ像までの幅広い製品を手がけています。

また、高岡銅器の鋳物技術を活かして、錫100%で作られた曲がる食器等、新しい商品開発もされています。



高岡市の取り組み

◆新分野開拓チャレンジ事業

高岡市では、新分野進出、新事業展開及び販路拡大を図る意欲ある中小企業者等を支援しています。具体的には、中小企業者等が地域資源である銅器、漆器、アルミ等を活用した新商品の開発等に対する補助を実施しています。

こうして開発された新商品等は高岡市内外に好評を得ており、更なるふるさと名物の充実に繋がっています。

◆工芸都市高岡クラフトコンペ

全国の工芸・デザイン情報の受発信基地となることを目指して、銅器、漆器、アルミ等の産業界と商工会議所、行政が一体となり、昭和61年より全国公募展を開催しています。このクラフトコンペは、全国のクラフトマン、造形作家等から作品を公募して実施するもので、作品は、金属、漆、木工陶磁器、ガラス、ジュエリーなど多方面にわたっています。著名なデザイナー等による審査を経た優秀作品は、クラフト高岡展の会場で展示されます。質・量ともに国内屈指のクラフトコンペと呼ばれています。

◆未来を担う人づくり

高岡市では、「ものづくりのまち」として伝統技術の継承や新たなデザインの開発を支援するとともに、小・中学校の段階からのものづくりの教育に力を入れています。市内の高校、大学においても将来のものづくりを支える人材育成が行われており、企業や関係機関と連携した人づくりの活動が展開されています。



市役所内で新商品を展示PR



クラフトコンペの様子



ものづくり教育の様子